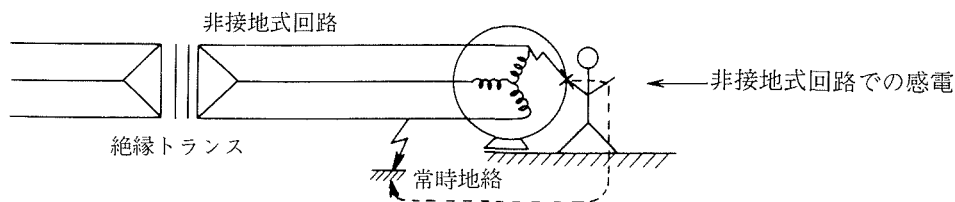


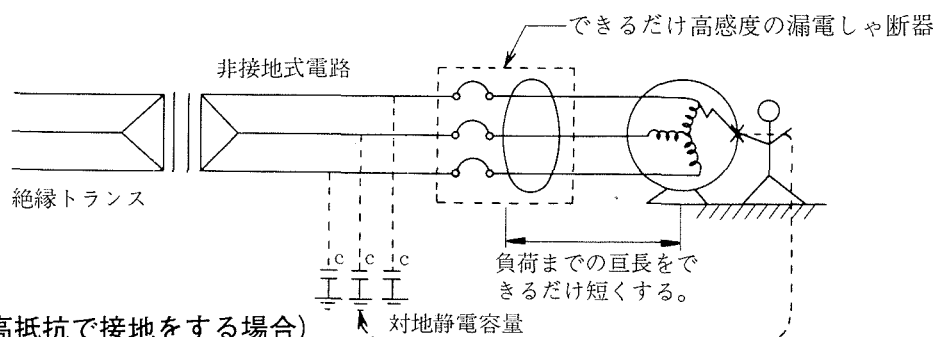
(I)非接地式回路への漏電しゃ断器の取付け



非接地の回路でも、図のように一線が地絡し、他線から機器に漏電しているような場合には、感電事故が発生しますので漏電しゃ断器が必要です。

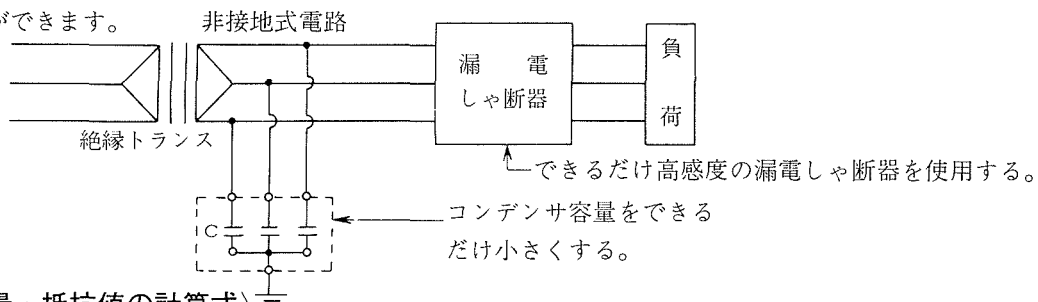
● (高感度漏電しゃ断器を使用する場合)

非接地式電路の特徴を生かしたい場合にはできるだけ高感度の漏電しゃ断器を、できるだけ負荷に近い場所に設置してください。



● (コンデンサまたは高抵抗で接地をする場合)

非接地式電路の特徴を損いますが、コンデンサまたは高抵抗を使用して中性点接地をとりますと漏電しゃ断器の動作を確実にすることができます。



〈コンデンサ容量・抵抗値の計算式〉

$$\begin{aligned} \text{三相} \begin{cases} \text{抵抗 } R = \frac{\sqrt{3} \cdot V}{I \times \alpha} \\ \text{コンデンサ容量 } C = \frac{I \times \alpha}{\sqrt{3} \cdot 2\pi f \cdot V} \end{cases} & \quad \text{单相} \begin{cases} R = \frac{V}{I \times \alpha} \\ C = \frac{I \times \alpha}{2\pi f \cdot V} \end{cases} \end{aligned}$$

V : 電路電圧(V)
 I : 感度電流(A)
 f : 周波数(Hz)
 α : 安全率(2~3)

(II)負荷電流が大電流の場合

負荷電流が大電流の場合は、図のように漏電検知器SG-A型を使用し、零相変流器を別に接地線に挿入して装置すれば零相変流器が小さくて済みますから、経済的でしかも高感度が得られます。

